

第31期目録委員会記録 No.1

第1回委員会

日時：2007年6月2日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長、稲濱、平田、古川、横山、渡邊
<事務局>磯部

[配付資料]

1. 日本目録規則1987年版改訂3版 追加訂正検討事項（2ページ-A4、事務局）
2. AACR2改訂事業の現段階（5ページ-A4、古川委員）
3. 視聴覚資料に関する取扱い及び解説（平成19年6月1日版）（2ページ-A4、平田委員）
4. RDA第3章第2次改訂案（本文104ページ-A4、事務局）
5. 第30期目録委員会記録 No.20（2ページ-A4）

[報告・連絡事項]

1. 第31期の開始に伴う委員長および委員の交代について
中井委員長より、永田委員長と荻原、原井、増井各委員の退任、および中井万知子委員長（国立国会図書館）と稲濱みのる委員（同）の就任が報告された。
2. 委員の補充について
欠員が生じて久しいので、その補充に努めることを申し合わせた。

[検討事項]

1. 日本目録規則1987年版改訂3版の増刷時の訂正について
増刷の時期が迫っている改訂3版の訂正について、配付資料1に基づいて検討し以下のような結論を得た。
 - ・ 「目録委員会（第28～30期）報告」中の、委員に関する現職と任期の記載漏れを補う。
 - ・ 第3章の改訂の過程で生じた「西暦年」（2.4.3.2Eと3.4.3.2C）は、「西暦紀年」に訂正する。
 - ・ 第13章の改訂の過程で生じた順序表示の例示中の「第」と「年」（13.3.2.3と13.7.3.3 A）については、前者は削除し、後者は、NCRの方針が本章の例示全体を通して読み取れないので、現状のままとし、将来の全面改訂時に持ち越す。
 - ・ 「記述付則2 記述の記載例」の309ページの例示の間は、1行空けとする。
 - ・ 「付録2 略語表」の「付2.1 一般略語」におけるハイフンの次は、半角空けとする。
2. RDA第3章第2次改訂案について
古川委員より、配布資料2に基づきAACR2改訂の現状について説明があり、以下のような意見が出された。
 - ・ 目録とメタデータの間で、同じ用語でありながら異なる使い方をされていることがあ

る。

- **Data Model Meeting** のような新しい動向と、従来のスケジュールを維持するJSCの姿勢とのつながりが、よくわからない。
- **FRAD**について知る必要がある。
- 我々が考えるべき目録規則は、それによって目録作業をするものなのか、それともそれはマニュアルの役割なのか。今の**RDA**案で作業するのは難しいのではないか。
- **ISBD**の方向性が把握しがたい。
- 国際目録原則のアクセス・ポイントの二本立てに基づいて、**NCR**を改訂する方針も成り立つ。

3. 今後の作業について

今後の作業について以下のように申し合わせた。中井委員長が、**NCR**改訂のために目配りすべき対象をリスト・アップし、メーリング・リストに載せる。リスト確定後、項目ごとの分担を決めるが、そのためにも委員の補充を急ぐ。

また次回は、**RDA**の第3章第2次改訂案を概観する。

4. **NII**の視聴覚資料の書誌レコード作成に関する方針について

平田委員より、**NII**が視聴覚資料の書誌レコード作成に関して、コーディングマニュアルとは別に、作成の基本的考え方を示した配布資料3が、紹介された。

次回の予定 7月7日（土）

以上